

笹川記念保健協力財団 奨学金支援

助成番号：2018・第 3 号

(西暦) 2018 年 3 月 12 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2018 年度奨学金支援

完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

所属機関・職名 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 緩和ケア看護学教室
博士課程 2 年

氏名 林 忍り子

2018年度奨学金支援（国内）完了報告書

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻

緩和ケア看護学教室 博士課程1年

林 凜り子

2017年4月に、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 緩和ケア看護学教室 博士課程1年に編入し、本年度は2年となった。本年度の4月～3月12日での本教室での授業や研究の進捗状況について報告する。

修学計画書の通り、授業履修に関しては、家族支援看護学セミナー、家族支援看護学特論を受講している。本授業では、研究に関すること、特に、研究デザインの作成、症例対照研究、コホート研究におけるデータ解析、医学統計学、Clinical Epidemiology 未来型医療における必要な医療情報基盤、環境生体応答論 分子予防医学、メタ・アナリシスについて、医学経済学など、博士課程における研究を進める上での基礎となる研究に関する知識や医学統計を学んでいる。家族支援看護学セミナーや特論では、英国や米国を中心としたがんで看取りを経験した遺族を中心とした遺族調査結果の文献レビューし、日本国内の状況の比較や研究の動向を学んだ。

また、博士論文の研究記載している、遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究に関しては、臨床実践の場で感じている内容に関して、遺族調査に反映できるように、ゼミのメンバーに意見を述べたり、一緒に研究方法を考えたりしている。また、修士課程の学生に対しても臨床経験やがん看護専門看護師としての経験や知識・技術について、一緒に議論したり確認したりしながら、博士課程の学生の立場より共に学べる機会を頂いている。

今回、博士課程において、がん終末期患者の「湯船につかる入浴」に関して、以下について明らかにしたいと考え、遺族調査を開始した。本調査の目的は、1) 一般病棟もしくは緩和ケア病棟で看取った遺族が最期の2週間に入院中に医療者の介助による「湯船につかる入浴」を行った頻度を明らかにする。2) 「湯船につかる入浴」を行った患者の遺族、行わなかった遺族の「湯船につかる入浴」に対する思いや意義を明らかにする。3) 最期2週間のがん終末期患者の入浴と遺族の悲嘆との関連を明らかにする。本調査内容について、ゼミのメンバーの意見を聞きながら、内容を推敲し、調査票を作成した。現在、所属大学の倫理審査で承認を得たため、実際に調査を開始し、データ収集中である。データ収集が終了してから論文作成をしていく予定である。

博士課程における研究テーマは、「終末期がん患者に対する湯船につかる入浴」に関する研究を行っている。本研究の理由は、一般病棟に入院中のご本人やご家族に、緩和ケア病棟のケアの内容を説明する際に、全介助の状況にあるがん患者の入浴への期待が大きいことが見受けられる。一般病棟には、「湯船につかる入浴」ができる対象者は、ADLが自立している、あるいは一部介助が多く、多くの病棟には、介助がしやすいような機械浴が準

備されていない現実がある。また、一般病棟での入院患者の保清の状況では、清拭、洗髪、陰洗、一部介助ならばシャワー浴を行っているがん患者が多い。特に、近年、急性期病棟の役割において、生命維持や病気の治療や検査などの医療処置が優先され、医療者が 2 人以上で介助するような「湯船につかる入浴」すなわち全身入浴へのケアは難しいことも実情である。それ故、緩和ケア病棟での「湯船につかる入浴」の期待は大きいと考えられる。さらに、研究としても、身体的・心理的・精神的な側面を評価するような「湯船につかる入浴」の評価を示されたものは明らかになっていない。多くの日本人は、生活が自立している際には、ほぼ毎日および 1 週間に 2~3 回は「湯船につかる入浴」を生活に取り入れ、緊張感から解放されたり、日々の身体的な疲労回復を行う習慣や文化がある。一方、「湯船につかる入浴」は、がん患者にとって、身体的な痛み、緊張感、気分転換、悪液質状態や衰弱が進んだ患者にとっては、全身の血流の改善だけではなく、心理的にも精神的にも安寧につながることも示唆されている。今回、日本人のがん終末期患者において湯船につかる入浴に関することによるがん患者の身体的精神的、心理的側面においての有効性を明らかにしたい。本研究は、6月に所属大学の倫理審査での承認を得て、また、8月に研究施設における倫理審査会の承認を得たため、研究を開始している状況である。

さらに、2018年5月24日25日に香港のYasumoto International Academic Parkで開催される予定の**8th Nursing Symposium on Cancer Care**において、*Alternations of difficulties experienced by nurses taking care of terminally ill cancer patients at the community based general hospital in Japan after the improvement of the clinical nursing training* というテーマで発表も行うことができたことは、本年度の貴重な学びにつながった。

最後になりましたが、2018年度奨学金支援（継続）を下さり、大学院生活におきまして、奨学金支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。この学ご支援を臨床に還元し、多くのがん患者やご家族に貢献できるように、今後も努めていきたいと考えております。引き続き、ご支援・ご鞭撻を頂戴できますと幸いです。